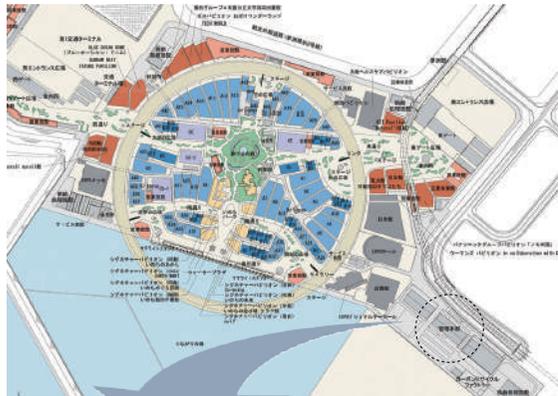


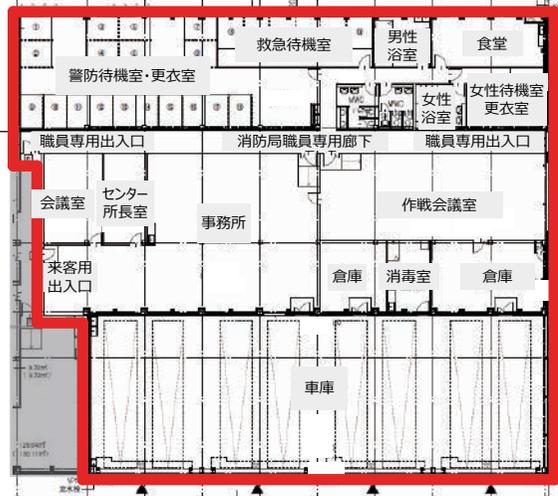
開催まであと129日です!!

※（令和6年12月5日現在）



提供：2025年日本国際博覧会協会

【万博消防センター1階】※2階にも専有部分あり



【日勤者】

役割	人員
センター所長	1名
日勤者	5名



【隔日勤務者】

役割	車両	(乗車)人員
指揮隊	指揮車	2名
消火隊	消防ポンプ車	4名
救助隊	救助車 高所活動車	4名
救急隊	高規格救急車	3名
通信担当		1名

隔日勤務者42名、日勤者6名の総勢48名

みなさん、こんにちは！
とうとう今年最後の大阪消防となりました。今年度から毎月「万博」に関する様々なトピックを発信し、「2025年」というキーワードと「2025年」です！「万博」はまだ先の話やけど近づいてきたらチケット買ってみようかなあ...と今からでも遅くありませんので、ぜひ2025年大阪・関西万博（日本国際博覧会）が開催された際には、足を運んでみてください。最後の記事では「大阪・関西万博消防センター（以下「万博消防センター」という）」の組織についてご紹介したいと思います。

【大阪・関西万博消防センター】については、令和5年6月号の大阪消防で紹介した「万博消防センター（仮）」の正式名称で、万博会場内で万が一、災害が発生した場合に迅速に対応できるように、会場の南東側に設置される消防拠点です。
この万博消防センターには、消防ポンプ車、救助車、高規格救急車、高所活動車を配置し、会場内の消防体制に万全を期します。万博消防センターにはそれらの車両を運用するための人員に加えて、万博消防センターの管理運営を統括する「大阪・関西万博消防センター所長」と此花消防署の万博担当が勤務し、総勢48名での体制となる予定です。

【大阪・関西万博消防センター】について
令和5年6月号の大阪消防では此花消防署の万博担当に府内消防本部から研修生を派遣いただいたことについて触れましたが、万博開催期間中は日勤研修者に加え、大阪で開催される万博という貴重な機会であることから、警防分野でも24時間勤務の研修生も受け入れることとしていきます。（現在、14本部15名が受講予定です。）

【おわりに】
大阪・関西万博は、来場者の方々へ未来社会に対して夢と希望を与えるだけでなく、消防職員にとっても、その安心・安全を守ることによって未来への希望をつなぐという、何物にも代えがたい崇高な使命を与えてくれます。
みなさん、どうか安心して会場までお越しください。

NEW UPDATE

Overloading 120%

特別編 教本「人材育成のヒント」

日常的に職場で人材育成に取り組むみなさん（リーダー）に、部下育成方法や必要なスキル、人材育成に関する豆知識を紹介してきた連載「UPDATE」。今回はその特別編として、高度専門教育訓練センターが作成した『教本「人材育成のヒント」』をご紹介します。

教本「人材育成のヒント」とは

指導者として必要な能力を向上させるとともに、職場でのより良い人材育成につながることを願い、心血注いで作成した『教本「人材育成のヒント」』（庁内ポータルに掲載）。指導者として必要なスキルなどを主に解説するものですが、指導者以外の方にとっても、職場の良好な人間関係作りや、身近な後輩の育成に役立つ内容となっています。ところで、みなさんは、指導（方法・理論・根拠など）をどのように身に付けましたか？そして、その指導が正しいかどうか、考えたことはありますか？ここでは『教本「人材育成のヒント」』の冒頭部分でも問いかけている「望ましい指導」について、改めて考えてみたいと思います。



指導についてのあなたの価値観は？

次のうち、みなさんの指導についての価値観に当てはまるものがあるか確認してみましょう。

☑	チェック項目
<input type="checkbox"/>	先輩から受けた指導のとおりにより部下・後輩を育てることが良い人材育成である！
<input type="checkbox"/>	成功体験により身に付けた指導方法があるため、他の部下・後輩にも同様に指導する！
<input type="checkbox"/>	災害現場は苛酷だ！だから消防は厳しく指導する方が良い！
<input type="checkbox"/>	多様性を認める社会では個性を認めるべき！だから優しく接する方が良い！

人生で大切にしている価値観は、人それぞれ異なります。なぜなら、私たちは生まれ育った家庭環境や友人関係、地域、経験、社会的背景など、様々な要因の影響を受けるからです。このことを踏まえると、Aさんに適した指導方法はBさんには適さない場合も考えられます。このことを踏まえて、指導者は、日々のコミュニケーションを通じて部下や後輩の性格や個性を理解し、それぞれに合った支援や指導を行うことが重要です。

指導の心得—指導にあたる前に—

- ・良い影響を与える指導方法は科学的に証明されています。
- ・主役は指導を受ける側であり、指導者はサポーターであることを理解しておきましょう。
- ・指導とは成長を見守ることであり、成長を焦らせるものではありません。
- ・精神論や根性論の指導では、効率的な人材育成を促すことはできません。
- ・部下や後輩自身の成功体験が、人材育成により良い効果を生み出します。

一般的に子育ては、10年後・20年後の未来に答えが出ると言われていますが、子育て方法は一つではありません。

同様に指導方法も多種多様ありますが、「部下・後輩が将来、指導者となったときに良い指導ができる」ことは、一つの正解と言えるのではないのでしょうか？

この『教本「人材育成のヒント」』を読み、ヒューマンスキルを高め、適切な指導・良い指導に繋がることを期待しています。

ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

第8回 令和6年度JICA救急救助技術研修

(救助担当)

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当による「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

はじめに

この研修は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が、日本の国際協力事業の一環として、開発途上国の消防・防災分野の関係者を対象に実施するものです。総務省消防庁に対し消防機関による救急救助技術研修が依頼され、今年度も様々な訓練が行われました。平成10年度から、大阪市消防局が本研修の企画、立案及び技術指導を行っており、今年度は8月7日から9月27日までの約2カ月間、7カ国9名の研修員が参加しました。

本研修は、日本の安全管理、救助技術及び応急処置等の知識、技術を習得することができるカリキュラムで構成されており、研修員が帰国後に、指導者として自国の消防の発展に寄与することを目的としています。

訓練紹介

本研修では、基本的なロープ結索をはじめ、低所、高所、立坑、水難救助技術操作等、基本的な救助操作を懇切丁寧に伝えることで、安全に確実に救助活動を実施することの重要性を研修員に学んでもらいました。

研修視察では、双葉町消防本部を訪れ、東日本震災時の被災状況を学ぶとともに、総務省消防庁、消防大学校を視察。続いて訪れた第52回全国消防救助技術大会（千葉県にて実施）では、いかに日本の救助技術が「安全・確実・迅速」に実施されているかを実感してもらいました。

研修最終日には、本研修の集大成となる総合訓練を実施し、それまでに学んだ技術をいかに発揮してもらえようという想定訓練が行われました。



総合訓練（高所救助）



水難救助訓練



開講式



閉講式



総合訓練（外傷アプローチ）



狭隘空間救助（CSR）訓練

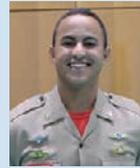
研修員たちの声

本研修に参加した研修員9名の所感を紹介します。



ミヤサカ
(ブラジル)

研修では救助技術、災害対策等について知識を深めるとともに、自らの安全を確保しながら、最も効率的な方法で、できるだけ多くの命を救うことの困難さを改めて認識しました。本研修で得た知識は、自国の救助対応を改善するにあたって、非常に重要だと考えています。



カラズンス
(ブラジル)

研修に取り組んだこの2カ月間は、人生の中で最も素晴らしい時間の1つでした。様々な消防職員の方々から毎日指導を受け、安全かつ効率的な救助技術を学ぶことができました。特に自国では安全管理意識について改善が必要であるため、帰国後、訓練を実施しようと考えています。



シモンズ
(フィジー)

本研修は、救助技術に関する膨大な知識と技術を獲得する機会となりましたが、安全第一という概念が、すべての救助技術に見られたことに、なにより感銘を受けました。大切な友達を作り、日本の伝統文化、日常生活を学ぶことができたことも、貴重な経験だったと思っています。



クアスカ
(ナウル)

貴重な時間を割いて、救助技術やさまざまな知識を、チームメイト全員に共有してくれた大阪市消防局の皆さんに、心から感謝しています。最高の人たちから様々なことを学んだ私たちには、自国に戻って伝える使命があります。この経験を、仕事の同僚たちにすべて伝えたいです。



コニー
(パプアニューギニア)

救急救助技術研修の構成はとて素晴らしいもので、カリキュラムの内容も有意義なものでした。訓練を実施していただいた消防署の指導者の皆さんは、優秀かつ豊富な知識と経験を積んだ方々ばかり。彼らから学び経験した多くのことを、これから生かしていきたいと考えています。



ジョン
(タジキスタン)

日本の救助隊が有する高度な技術、規律あるチームワーク、強力な安全文化、正確さ、献身的な姿勢に、非常に感銘を受けました。予防措置と効率的な緊急対応の両方に焦点を当てた包括的なアプローチは、世界的な災害管理のモデルになるほど、価値あるものであると感じています。



ブワシ
(タンザニア)

私がこれまで経験したことがない最高の学習環境で、最高の指導、最高の講義・訓練を受け、多くを学び、理解を深めることができました。期待をはるかに超える研修内容で、各救助分野で長年経験を積んだ皆さんが情熱を持って指導して下さったことに、心から感謝しています。



ズイ
(ベトナム)

日本の指導者、運営スタッフ、通訳、サポートスタッフの働き方に、本当に感銘を受けました。指導隊は熱心で、常に参加者にやる気を与えてくれました。総合的な設備と経験豊富で高度なテクニックを備えた指導者による本研修は、理論と実践のバランスを保っていると感じました。



カン
(ベトナム)

多くを経験した中でも、救助活動の際の安全性に関する学びが、今後の仕事に非常に役立つと感じています。大阪市消防局の皆さん、運営スタッフ、通訳、サポートスタッフの方々、皆さんともフレンドリーで、日本滞在中なかと助けて下さったことが心に残っています。



様々な事案から災害活動を振り返る

南方面隊

消火隊1隊での二方攻撃他方警戒!!

■はじめに

今回紹介する事案は、市営の共同住宅で発生し、RC造陸屋根11階建の1階一室（A号室と仮称）から出火した火災である。なお、本件は上階に延焼危険があり、通報から眼前火災の模様。通報者本人が逃げ遅れているという情報であった。

あなたが本件火災に出場し、現場到着すればどのような活動を行うか具体的にイメージし、それぞれの任務、立場（小隊長・機関員・隊員）で想像してみてください。

■火災概要

構造様式
RC造陸屋根11階建共同住宅
(461m²/延4475m²)
焼損状況
1階A号室(占有40m²)において、20m焼損及び天井側壁20m焼損

気象情報

天候 晴
風向風速 南南西0.9m
気温 19.7℃

救助活動 誘導1名

(50代女性
A号室住人)

覚知時間 0時52分
鎮圧時間 1時04分
鎮火時間 2時10分
出場隊 車両18台

(緊配3隊含む)
人員63名
(緊配12名含む)

■活動内容

・現場到着まで
H管内火災指令により、第1出場隊(直近隊)として出場。走行中、「通報内容は独居の車いす使用者であり眼前火災である。現在も通話中、玄関付近まで誘導、玄関は無施錠である。救出

活動にあたれ」という警防本部からの無線情報があり、車内で要救助者の確保を優先して活動する旨を小隊内で共有する。

・車両部署まで

災害点建物西側に到着すると出火室A号室ベランダ掃き出し窓から煙気を確認し、「西側直近部署、煙気あり」の無線即報を実施。

小隊長が下車し、先行すると建物南側の敷地内通路上に車両部署することができ、有効なホース延長ができると判断し、車両部署位置を南側に変更を指示。

東側の玄関が見渡せる位置に部署する。

・初期活動

出火場所のA号室の東側玄関に至ると、開放されていた扉から激しく火炎が噴出しており、

連携し、2線延長にて一方攻撃他方警戒態勢をとることを判断。1線は東側玄関、もう1線は背面の西側ベランダ側に分かれてホース延長を実施し2線2口の放水態勢を確立する。

■筒先部署及び活動状況

・消火活動

2線2口放水の態勢を整え、玄関側の放水は噴き出している火炎をストレート放水で抑え、背面の西側ベランダの放水は上階の壁に放水し、上階への延焼阻止を実施。中継受水完了までの間に玄関側を攻撃側(給気)、

ベランダ側を警戒(排気)にして消火及び検索を行う活動方針を共有。中継受水完了後、後着した救助隊員に背面ベランダの掃き出し窓の開放を依頼し開放を確認後、呼吸器を着装し、室内進入にて消火にあたる。火勢が強かったため、中継隊に玄関側にもう1口筒先配備を依頼し熱気が強くなれば、援護注水を行うように指示し制圧に至る。

■活動のポイント

本火災は、正面玄関から火炎、背面ベランダ側から煙が噴出している状況下での確な判断を行い、自小队のみで2線2口放水にて一方攻撃他方警戒態勢を確立させ、主火力の制圧と上階への延焼阻止を実施し、被害を最小限に抑えている。

また、玄関前で炎に煽られ動けなくなっていた車いすの住人を安全な場所まで誘導している。

紹介した活動が奉功事例となった要因は、直近隊の4人全員が基本戦術である「一方攻撃他方警戒」を熟知していたことに加え、一定のリスクを把握していたからであり、それらが備わっていたからこそ成し遂げることができたものがある。

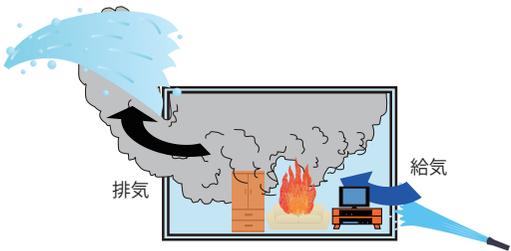
中継受水が完了するまでの間、自小队のみで2線2口放水にて「一方攻撃他方警戒」を実施するには、タンク水の残量を考慮した放水圧力や流量調整、中継隊等との連携をより一層密にする必要がある。

セオリーどおりにいかない災害現場で、何を優先して活動すべきか消防隊は決断をせまられる。消火戦術の理解を深め、災害状況に合わせた戦術を選択し、対応しなければならぬ。

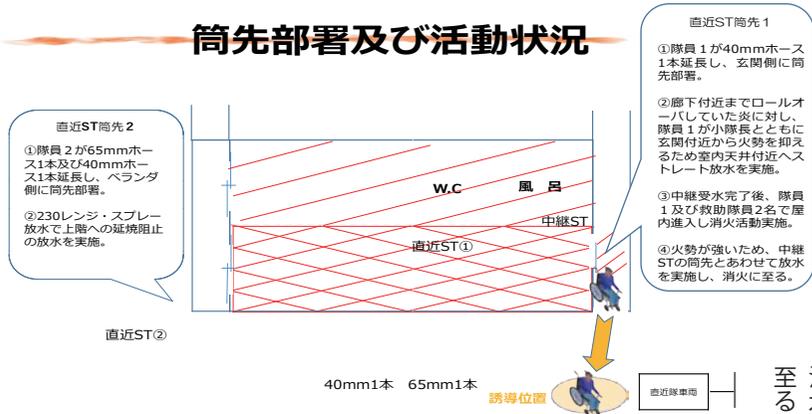
今回紹介した消火隊の迅速、的確な対応で被害を最小限に抑えることができた。これは日頃の訓練の賜物である。今後の現場活動の参考としてもらいたい。

一方攻撃他方警戒とは？

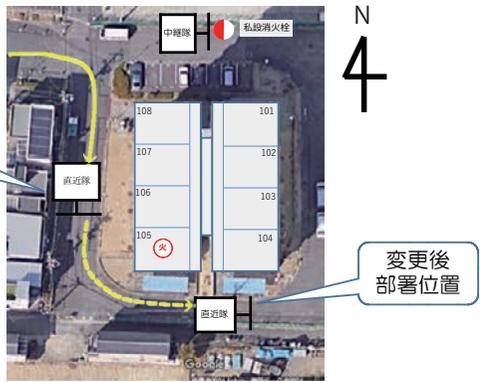
- ① まず、開口部を2箇所以上設定する。
- ② その開口部を給気側と排気側に分ける。
- ③ 給気側、排気側共に筒先を配置する。
- ④ 準備が整えば、給気側から放水を開始し、排気側は警戒筒先とし延焼する火災を警戒



筒先部署及び活動状況



付近状況図及び部署状況図



初期部署位置

変更後部署位置

その玄関扉の横には出火室住人が車いすで動けなくなっていることを確認。小隊長は直ちに車いすの住人を車両付近の安全な位置まで誘導し、併せて、出火時は1名のみであり他に逃げ遅れがないこと、並びに負傷の有無を聴取したうえ、機関員に警防本部へ即報するよう指示し要救助者を救急隊に引き継いだ。機関員は放水準備を整えながら、「1階1室10m燃焼中、要救助者確保済み、補完救急隊要請」を警防本部に即報。上記活動と並行して、隊員2名はお互いに

■おわりに

紹介した活動が奉功事例となった要因は、直近隊の4人全員が基本戦術である「一方攻撃他方警戒」を熟知していたことに加え、一定のリスクを把握していたからであり、それらが備わっていたからこそ成し遂げることができたものがある。

中継受水が完了するまでの間、自小队のみで2線2口放水にて「一方攻撃他方警戒」を実施するには、タンク水の残量を考慮した放水圧力や流量調整、中継隊等との連携をより一層密にする必要がある。

緊急消防援助隊（統合機動部隊） 救急編

はじめに
令和6年1月1日に発生した能登半島地震に対し、本部救急は緊急消防援助隊の統合機動部隊として派遣されました。その経験を踏まえ、消防庁等通知を紹介するとともに、統合機動部隊に編成された救急隊の任務や被災地派遣時の留意点などをまとめます。

統合機動部隊とは

統合機動部隊は、消防庁長官の出動の求めまたは指示を受け、概ね1時間以内に出動する即応隊です。救急隊は、統合機動部隊に選定されている5隊の中から3隊が編成されます。能登半島地震では、本部機動第1救急A13（以下、A13）、浪速A365、海老江A367が編成され出動しました。なお、令和6年9月1日現在ではA13、浪速A365、此花A274、東成A370、淀川A270が登録されており、そのうち3隊が編成されます。

消防庁等通知（派遣先の救急活動について）

平成29年3月30日 消防救第47号

* 応援救急隊が用いる救急活動プロトコル及び特定行為に関する指示要請*

（一）応援救急隊として出動する際の救急活動については、特段の指示がなければ平時と同じメディカルコントロール体制に基づき実施することとし、そのことを各応援救急隊の派遣元メディカルコントロール関係機関及び出動応援救急隊間において共通認識としておくこと。

（二）救急救命士法（平成3年法律第36号）第44条第1項の厚生労働省令で定める救急救命処置（以下「特定行為」という。）に関する指示要請についても、受援側から指示体制等が指定されるまでは、派遣元メディカルコントロール協議会に所属する医師に対して行うことを共通認識としておくこと。

要旨…受援側から指示体制等が指定されるまでは派遣元のメディカルコントロールに従う。特定行為についても派遣元メディカルコントロールの医師に指示をもらう。

可欠である。

要旨…環境的な要因で医師の**具体的な指示が得られず**、指示なしに救急救命処置をやるを得ず実施する場合、通信途絶の状況、代替手段がなかったこと、切迫性等について**詳細に記録し、メディカルコントロール体制の範囲内で実施できる**。しかし、**事後検証を必ず受ける**。

補足…能登半島地震では、大阪市の救急隊については大阪急性期・総合医療センター高度救命救急センター医師に指示受けることで調整。

被災地派遣時の留意点

- 酸素ボンベの予備、毛布の予備を積載する。
- 残留者により予備車運用することを考え、派遣に不要なものは降ろす。（車載している様式や通知等、庁舎カギ、防刃チョッキなど）
- ※ 集災セットは被災地で使う可能性があり持つて行く方が望ましい。（避難所での集団災害など）

● 食料について、初期の段階では現地で湯を沸かせないことからカップ麺は持って行っても食べられない可能性が高い。栄養調整食品（ゼリータイプを含む）や缶詰、プロテインバー、日持ちのする菓子パンなど救急車の中でも手軽に

食べられるものを用意する。断水に備えて水（飲料用、洗浄用）も多めに持参する。

- 派遣者については、残留者による運用も考えて選定する。
- 道が寸断された孤立集落に災害出場する場合があり、長時間の徒歩による救助活動や、救急隊のみで急斜面を上り下りすることもあるため、自己確保ロープのついたライフベルト等を携行する必要がある。
- 半長靴等が汚れた場合、洗浄する水がなく、避難所や現地消防本部を汚染させてしまう可能性があるため、デイスポ感染防止衣やシューズカバーを有効活用する必要がある。



急斜面を移動する救急隊

■能登半島地震派遣時の携行・積載資器材■

【積載資器材等】(常時積載資器材に追加で積載したもの)
タイヤチェーン、感染防止衣(デイスポ)、アルコール、養生テープ、各種電池、清拭用の紙、ゴム手袋、車載端末装置充電コード(ANSINコード)、無線予備バッテリー、トランシーバー、寝袋、緊急消防援助隊用備蓄食料(水、カップ麺、栄養調整食品など)

【個人装備等】リュック又はカバンに養生テープを貼り名前記載(大消 A13 ○○)、リユース感染防止衣、着替え、雨衣、歯ブラシ、タオル、常備薬、運転免許証、保険証、ジャンパー、吸湿発熱繊維等の機能性インナー、モバイルバッテリー、ヘルメット(ライト付き)、ケブラー手袋、半長靴、ゴーグル、スリッパ、カイロ、ドライシャンプー、ボディシート、ウエストバッグ、油性マジック(黒・赤)、ノート、食事関係(ゼリータイプを含む栄養調整食品、菓子パンなど)、編上げ長靴、ライフベルト(自己確保ロープを含む)、名刺(小隊長)

携行・積載資器材

A13が能登半島地震派遣時に携行・積載した資器材等を次にまとめました。

おわりに

緊急消防援助隊（統合機動部隊）として出場し、その経験から学んだことをまとめました。統合機動部隊として出場する際は、即応部隊として直ちに対応できるように、この記事を参考に、携行品や通知等を確認してください。

北消防署



鉄筋コンクリート造地下2階地上14階建複合用途建物の地下2階において、消防ポンプ用の制御盤内の電気配線が焼損した火災。

焼きした現場の状況は シンプルな事案ではあるが、電気計器類や消防設備の構成が複雑で調査活動は難航した。

しかし、電気信号や電力供給の流れをまとめたフロー図を作成し、活用することで情報を整理することができ、原因判定に繋がった事例である。

発表会当日は警防担当だけでなく、予防(査察・設備)担当も聴講していましたが、消防ポンプについて非常に勉強になる事例でした！



西消防署



4階建住宅兼作業場(鉄工所)において、ダクト3m焼損した火災。

鉄工所のダクトから火災?金属から出た、切削屑が果たして燃えるのか?静電気なのか?酸化反応なのか?それらを科学的に立証するために、考えられる原因を考え、再現実験することで、理化学試験で裏付けられたデータを元に出火原因を突き止めた事例。

判明した原因をもとに鉄工所への注意喚起、再発防止を実施することで、ものづくりの街を守った事例でした！

生野消防署



鉄骨造陸屋根ALC版張3階建住宅兼作業場において、1階作業場外壁3m、引込線、計器盤が焼損した火災。

ほとんどの建物に設置されている計器盤キャビネットという身近にあるものが関与している火災であり、電気配線の短絡による火災と推察していた火災であるが、調査担当者の機転により過去のマップを利用して比較することで、計器盤のずれ落ちにより絶縁被覆が破壊されて短絡に至ったということが判明。

事例発表も発表者と補助者の見事なコンビで発表しており、会場を盛り上げてくれた事例でした！

平野消防署



汚泥炭化燃料化施設において、炭化物ホッパ、屋根、内壁及び外壁等が焼損した火災。

下水を処理する施設において、その際に発生する汚泥を乾燥、炭化することで燃料(炭化物)として再生する工場内で爆発火災が起こった事例。

非常に特異で、専門的な内容で難しい事例であるが、そこを分かりやすく説明し、「一酸化炭素」についての調査活動だけでなく、火災現場での安全管理についても触れており、非常に幅の広い発表力の高い事例でした！



「火災調査事例発表会」が9月12日(木)にOsaka Metro九条ビルで開催された!全25署からの応募のうち、選ばれた5署5事例が約2か月間の準備を経て発表され、審査の結果『住之江消防署』が見事、最優秀(署)に選ばれたよ!

9月12日 木曜日 日直
けんた ひでみつ

※1次発表会レポートを公開する火災調査事例発表会を開催しました。

<p>ENT No.1 北消防署 「この現場あなたならどうする!?' 消防司令補 吉村 昂俊 消防司令補 頓宮 崇之</p>	
<p>ENT No.2 住之江消防署 「車両鑑識からリコールへと繋がった火災事例について」 消防士長 谷垣 厚誌 消防司令補 小泉 信一</p>	
<p>ENT No.3 西消防署 「ダクト火災(鉄工所編)~守れ ものづくりの街~」 消防司令補 竹田 直樹 消防司令補 砂山 周作</p>	
<p>ENT No.4 生野消防署 「Connecting The Dots~点と点を繋ぐ~」 消防司令補 波部 佑輔 消防司令補 小山 大輝</p>	
<p>ENT No.5 平野消防署 「一酸化炭素の爆発事例について」 消防士長 片山 弓矢 消防司令補 岸本 光信</p>	

おめでとう!



住之江消防署



路上において貨物自動車1台焼損。
見分が難しい車両鑑識において、しっかりと出火箇所を絞り込み、溶着した樹脂を根気強く慎重に取り除き、短絡痕などの痕跡を崩すことなく露出することで電気配線の短絡を発見。

その位置関係から製造工程での誤配線ということ突き止め、メーカーに安全対策への改善要望書を送付した。
その結果13,762台のリコールへと繋がりと、メーカー主導になりがちな車両鑑識において、消防側の意見を聴くことなく説明し、類似火災を防止した事例。

発表力もちろん、特に「有用性」「取組」が非常に評価された事例でした!

